

西浮通信

令和4年9月1日

NO. 383

東京都北区立西浮間小学校

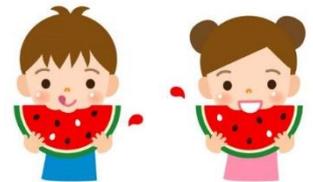
校長 小島 みつる

「口ぐせ」を見直しませんか

校長 小島 みつる

夏休みが終わり、子供たちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。今年の夏は6月下旬から猛暑日続きでしたが、ここ数日の爽やかさにほっとされている方が多いのではないのでしょうか。今年から校庭で実施したラジオ体操も、多くの児童や地域の方々が参加されていたそうです。地域やPTA役員、保護者の皆様には夏休み中、子供たちに様々なご支援をいただき、ありがとうございました。

子供たちにとって、夏休み明けに一番大事なことは、少しでも早く、規則正しい生活リズムを取り戻すことです。そのために大切なことは「とにかく朝起きる時間をいつも同じにすること。」だそうです。まずは、早起き！ぜひ、お試しください。



・・・ということで、まだ生活リズムが取り戻せない多くのご家庭では、今朝は「早く起きなさい！」「なにグズグズしてるの！」「今日から学校なんだからサッサとしなさい！」という保護者のみなさんの怒る声で子供の一日がスタートしたのではないのでしょうか？子供たちはきっと「あ～あ、いやだなあ」「めんどうくさい！学校行きたくないなあ」とブツブツ言いながら登校してきたのかもしれない。逆に、朝のスタートで、(明るく元気な声で)「〇ちゃん、おはよう！学校が始まるよ。楽しみだね。」「今日、持っていく物は何かな。忘れ物しないで行きたいね。」「〇ちゃん、行ってらっしゃい！帰ったら、学校の様子、いっぱいお話ししてね。」などと笑顔で声をかけていたら、子供はワクワク楽しい気持ちで登校できていることでしょう。私たちは、毎日、「言葉」で考えや気持ちを伝え合っています。でも、日常的に大人が一日に使う言葉の数(種類)は800～900語くらいなのだそうです。



子供が使う国語辞典の収録語数は40,000語程度。大人が知っているべき語句の内、約2%の言葉で日々の会話が行われているわけです。なおかつ、私も含め多くの大人には「口ぐせ」があります。少ない語彙数に加え、私たちは同じ言葉を何度も何度も繰り返し口にしています。もし、子供に話しかけている言葉に、良くない口ぐせがあったらどうでしょう？子供は、同じ言葉を何度も何度も数え切れないほど聞かされていくうちに、刷り込まれ、その言葉を信じ込みます。また、同じ言葉が子供の口ぐせにもなっていくでしょう。

私事で恐縮ですが、私は幼い頃母に「〇ちゃん(妹の名)は歌も踊りも上手だね。でもお姉ちゃん(私のこと)はへたくそだね。」と妹の褒め言葉とセットで何度も言われていました。その結果、私はずっと人前で歌うことも踊ることも大嫌いで苦手でした。仕事をする年齢になって付き合いのカラオケで歌わなくてはならなくなったとき、「え?! けっこう私って歌えるじゃない!」と初めて母の呪文?から逃れることができました。(妹に言わせると、違う面で私と比べられて妹にもコンプレックスがあったそうです。)大事な人、「親」「家族」「先生」「友達」からの言葉の影響力は大きいのです。

子供を否定する言葉、例えば「グズ」「へたくそ」「バカ」「ダメな子」などなど、または自分のネガティブな感情を表す言葉「あ～あ」「いやになる」「嫌い」「はあ?!」などなどの良くない「口ぐせ」がないのでしょうか？毎日その言葉をかけられる子供



はその言葉通りの子になってしまいます。そうならないためには、まずは自分の「口ぐせ」に気付くことが大切です。そして、「こうなって欲しい」という姿が子供にわかるような言葉、「頑張り屋さんだね」「～できて、すごいね。よかったね。」などなど、また子供にかけてあげたい良い言葉「ありがとう」「〇ちゃんのおかげで助かったよ」などなどを、繰り返し口にしていけば、それが「口ぐせ」になります。温かく、優しい言葉が「口ぐせ」になったら、すてきですね。